

遠隔監視で保守サービス効率化

山陰水処理

液面監視システム提案



新出 朋之社長

島根県で水処理薬品・装置の販売と保守サービスを手掛ける山陰水処理（社長＝新出朋之氏、本社・島根県松江市浜乃木5-4-28）は、水位計メーカー、物流システムアップメーカーの2社とタイアップし、このほど水処理薬品の発注業務をインターネット利用で効率化できる「液面監視システム」を企画・開発した。水処理薬品注入装置の薬液貯蔵タンク内の薬液残量を遠隔監視し、山陰水処理が社内で運用する受注管理システムや保守サービス技術者が携行するスマートフォンなどのタブレット端末で薬液残量を確認できる。中小工場が積極導入できるよう、大手水処理

メーカーが商品化する同システムよりも廉価版での実用化に成功した。山陰水処理は新システムの提案営業に乗り出して

いる。同社は1979年の設立当初から水処理薬品・装置大手の栗田工業（本社・東京都新宿区）の販売特約店を務める。ポイラメーカー大手のサムソン（本社・香川県観音寺市）の販売認定店も担っており、水処理薬品・装置や蒸気ボイラなどの取り扱い実績が豊富。冷却水系水処理薬品のほか、ポイラ水処理薬品、環境処理薬品、洗浄剤、水処理装置、水処理用機器、

各種分析など多様な水処理商品を扱う。山陰水処理が企画し、タイアップ先2社と共同開発した「液面監視システム」はさまざまな薬品で使用可能だが、例えば、工場などで採用される蒸気ボイラの付帯設備である水処理薬品注入装置の薬液貯蔵タンク内に残液検知センサーを実装し、薬液の液面水位レベルを測定。液面が低位になると、センサーとつながる端末が残量不足を検知し、インターネットを介して水処理薬品メーカーや山陰水処理本社の受注管理システムへ残量不足を通知するシステム。

現場回りで社内不在がちな保守サービス技術者が所有するタブレット端末での確認が可能。保守サービス先の薬液残量を時間差無く、薬液供給側が把握できる。必要に応じて薬液を自動発注することも可能。

新出社長は「同様機能を持つシステム商品は既に大手水処理薬品メーカーなどで販売されているが、導入初期費用が高額なシステムが多く、大手企業でないと採用に至りにくい。当社の商圏である山陰エリアでポイラを使用する工場は中小企業が多い。高額な投資はできない実情がある。そこ

で、中小企業でも導入しやすい普及価格帯で提供できる廉価版を企画し、パートナー企業のお力を借りながら商品化にこぎ着けた」と経緯を語る。同社が推奨する液面監視システムなら、施工費と月額の利用費を別途要すが、システム単体の初期費用を税別5万円以下に抑えられるという。

山陰水処理は新システムを水処理薬品の保守サービス契約を締結中の取引先への提案を強化する一方、水処理薬品メーカーやポイラメーカーなどにも売り込み、メーカー推奨の別売品としての採用を促す考え。

ポイラ水処理薬品のソリューションでは今期、栗田工業製の水処理薬品「ドリームポリマー」の提案営業に注力中。ポイラ缶体内に付着するカルシウムスケールなどの不純物を通常運転の中で速やかに除去する新商品。「ドリームポリマー」を用いると、ポイラの燃焼効率が上がり省エネにつながるほか、ブロー水量を削減でき省コスト効果も見込まれる。山陰水処理は同商品を切り口とした開拓営業を進めている。